阿佐ヶ谷住宅の電子書籍　創刊0号

2013.04.08

著：えんぞう

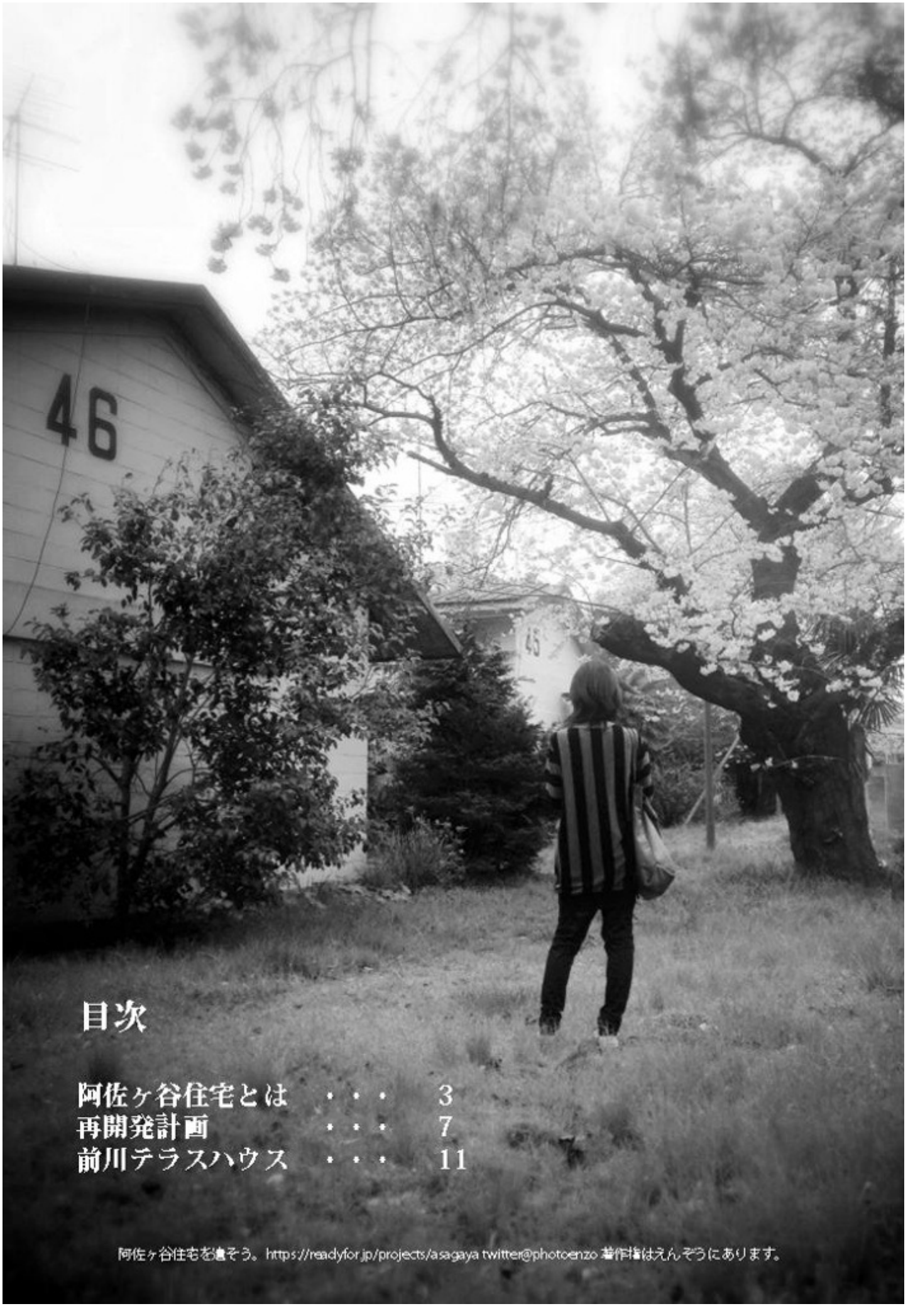
阿佐ヶ谷住宅を遺そう。https://readyfor.jp/projects/asagaya twitter@photo-enzo 著作権はえんぞうにあります。

阿佐ヶ谷住宅の電子書籍　創刊0号

2013.04.08

著：えんぞう

阿佐ヶ谷住宅を遺そう。https://readyfor.jp/projects/asagaya twitter@photoenzo 著作権はえんぞうにあります。



目次

阿佐ヶ谷住宅とは　・・・　3
再開発計画　・・・　7
前川テラスハウス　・・・　11

阿佐ヶ谷住宅を救そう。https://readyfor.jp/projects/asagaya twitter@photoenzo 著作権はえんぞうにあります。

阿佐ヶ谷住宅とは

阿佐ヶ谷住宅は昭和33年、発足したばかりの日本住宅公団に依って供給された分譲住宅です。僕も阿佐ヶ谷住宅が分譲だと知ったのはお恥ずかしながら去年のことでしたが、総戸数350戸と大規模な計画だったことが伺えます。

南阿佐ヶ谷から南下すると突如出現する阿佐ヶ谷住宅エリアに入るとやはりどこかタイムスリップしたかのような錯覚にとらわれます。都心にいながらにして空が広く、また住戸が林立しているにも拘わらず何故か開放感のある何とも不思議な空間なのです。

阿佐ヶ谷住宅の都市計画は日本住宅公団の津端修一に依るものでした。阿佐ヶ谷住宅は中央に大きな公園があり、その周囲を囲むように5つの島があり、それぞれの島の中央にも公園があるという設計となっています。

近代建築の巨匠前川國男に依る三角屋根のテラスハウスも非常に有名です。350戸中TA型150戸、TB型24戸の合計174戸が前川に依る設計でした。フラット屋根のTC型は公団標準設計です。

そして緑、植栽です。
その本数は何と、樹木総数で1122本116種なのだそうです。
ランドスケープとも関わる部分ですが、集合住宅配下のプライバシーに配慮した植栽計画となっていたそうです。
50年を経過して最早自然と化してしまった感があります。

これら、ランドスケープ・建築・豊かな緑という３つの特徴を兼ね備えた分譲住宅地、それが阿佐ヶ谷住宅です。

再開発計画

阿佐ヶ谷住宅は分譲住宅でした。
昭和の住宅不足に応えるべく急ピッチで造成された阿佐ヶ谷住宅は、その後の住宅建築技術の進歩や住人の家族構成の変化に柔軟に対応することが難しくなり、かなり早い段階から再開発の検討がなされてきました。
しかし、阿佐ヶ谷住宅は当時でも非常に高価な物件だったことから、社宅用途として法人が購入するなど複雑な地権関係があったことや、団地として登録されていたことから個別に大規模な増改築をすることが制度上出来なかったこともあり、長い間再開発が着工することはありませんでした。

平成10年3月に杉並区により公団分譲阿佐ヶ谷住宅建て替え及び周辺整備のための基礎研究という報告書が提出されました。この報告書では阿佐ヶ谷住宅の再開発用途に第一種底層住居専用地の緩和型地区計画制度が用いられたものでした。これに対し周辺住人は日照や治安等の観点から再開発計画に反対しました。この反対の動きは杉並区の主催する成田地域まちづくり協議会に於いて調整が続けられましたが、最終的には杉並区が地権者の都市計画企画提案書を受領したことにより、再開発計画が進行することとなります。

詳細な推移は、阿佐ヶ谷住宅日記　再開発最新情報をご参照下さい。
http://www.geocities.jp/asagaya_jyutaku/page/saikaihatu/index.htm

再開発の是非について著者はそれを述べる立場にありません。
確かに現在の阿佐ヶ谷住宅の体裁を保ったまま、環境を活かしたまま再開発がなされれば、阿佐ヶ谷住宅ファンにとっては望ましいことかもしれません。
しかし阿佐ヶ谷住宅は観光地ではなく、住居であり、私有地です。住戸はもとより、住環境は先ずなによりも住人の為にあるべきだと思います。阿佐ヶ谷住宅は3分の2以上が社宅用途だったこともあり、個人資産で全住戸を改築することは難しいと思います。その上で、集合住宅として増床することへの理解も必要かも知れません。
新しくこの地に迎える家族に不利益が無いように、努力して行きたいものだと思います。

前川テラスハウス

テラスハウスを設計した前川國男は2年間ル・コルビュジェに師事していたそうです。
またフランスからの帰国後、前川はアントニン・レーモンドの建築事務所に籍を置いていました。コルビュジェもレーモンドもモダニズム建築の神様見たいな人なので、その遺伝子を受け継いだ前川の初期建築物が生活圏内にあるという僕は何とも幸せな境遇だった訳です。前川は商業主義的合理性追求には批判的で、その建築は西洋の機能合理主義的とは一線を画した暖かみを特徴としているのだそうです。

戦後日本は深刻な住宅不足に陥っていたそうです。焼け野原ですから当然ですよね。
そこで昭和30年に日本住宅公団が発足し、約25年の間に100万戸余りの住宅を供給するという世界でも類を見ない超大規模な事業を成し遂げました。
阿佐ヶ谷住宅は昭和33年に完成しています。公団の分譲スタイルの団地としては恐らく初めてか、それに近い物件だったようです。

前川は幼少時から内務省の土木技師だった父親に「大きくなったらお前は家を建てる人にならないかなぁ」と言われていたのだそうです。

住宅不足を克服するにはやはり量産です。
どう効率的に供給していくかという視点で、プレハブ住宅と高層化という処方箋がありました。前川に依るプレハブ住宅はプレモスと言うそうですが、その名残が阿佐ヶ谷住宅にも見られるそうです。高層化では現存しませんが、晴海高層アパートがありました。

阿佐ヶ谷住宅に於いては、三角屋根の350戸中TA型150戸、TB型24戸の合計174戸が前川に依る設計です。フラット屋根のTC型は公団標準設計です。

阿佐ヶ谷住宅を救そう。https://readyfor.jp/projects/asagaya twitter@photoenzo 著作権はえんぞうにあります。

阿佐ヶ谷住宅の電子書籍　創刊0号

2013年4月8日　初版
発行者　えんぞう
文章・写真　えんぞう

阿佐ヶ谷住宅の電子書籍に関するお問い合わせは
asagaya@dj-enzo.net もしくは twitter@photoenzo までお気軽にどうぞ！